

令和4年3月29日

大槌町長 平野公三 様

福幸きらり商店街跡地利活用事業検討委員会
委員長 村田 仁

福幸きらり商店街跡地利活用事業検討結果 報告書

福幸きらり商店街跡地利活用事業検討委員会では、令和2年度より商店街跡地利活用について方向性、及び具体策について「収益性・経済性」と「社会性・文化性」の両視点で慎重に審議を重ね、以下の方向性で結論を得ました事をご報告いたします。

報告1. 町にとって発展可能性の高い用地である。

案件用地は、新規開通した三陸自動車道「大槌 IC」に近接しており、今後の交流人口の増大が期待できる立地となっています。また同時に地域の教育機関が集積する文教拠点としての特徴も持っており、今後の発展可能性の残る数少ない立地でもあることが共有されました。

報告2. 町民は子供向けの機能整備を含め、複数の用途を期待している。

商店街跡地の利活用のアイデアを収集するために行った委員会独自の住民アンケートにおいては、文教施設の集積を活かした子供向け機能の充実を期待する声が多かったものの、産業面、文化面等の機能を期待する声も大きく、利活用に向けたアイデアは複数並立する結果となりました。また有望なアイデアが多い一方、跡地利用における主なコンセプトに設定するためにはさらに磨きこみが必要な点が確認されました。

報告3. 近隣地域では類似、かつ大規模施設の整備が進んでおり影響を見極める必要がある。

一方で、委員会主導による独自調査の結果、近隣地域において同種の機能を模索する大規模な施設（道の駅、公園、交流拠点等）が整備されることが明らかになりました。これら施設群はおおむねここ数年で開業される見込みであり、商店街跡地の今後についてもその影響を見極める必要があるという意見が多く見られました。

以上の3つの検討結果より、商店街跡地については、

「二段階開発」という方向性がふさわしいという意見に集約されました。

同方向性のコンセプトは、

1. 周辺地区の開発動向を鑑み短期での大規模開発は避ける。
2. 一方で利活用が可能な必要最低限の整備は行っておく。
3. 長期での開発に向けて、コンテンツの絞り込み磨きこみを実施する。

となります。

短期（現在～5年以内）においては、商店街跡地の機能を子供たちの遊び場、待ち合わせの場、イベントの場所と限定し最低限のコストで整備を行ない、一方で3年～5年後に再度、利活用に関する話し合いの場を設置するために、町の有力な資源の磨きこみを行うことが望ましいと考えております。

長期（5年後以降）においては、商店街跡地の機能を「短期」の期間において磨きこまれたテーマを中心とする地域内外との交流拠点として位置づけ、20年程度の長期にわたる活用を前提として抜本的な整備を行うことが望ましいと考えております。

なお、委員会における意見のまとめとして「福幸きらり商店街跡地利活用事業検討委員会利活用検討結果報告」を添付しますので、本委員会の意見・要望等を十分尊重し、可能な限り幅広く関係部署と情報共有し、町民から必要とされる整備が行われるよう計画策定及び計画推進に反映していただきますよう要請します。

添付書類

- 福幸きらり商店街跡地 利活用事業検討結果報告（本編）
- 福幸きらり商店街跡地 利活用事業検討結果報告（概要版）